

2019年

冬

耳寄り情報

発行 株式会社イマガワ
 岡山県津山市押入895
 TEL 0868-26-5666
 FAX 0868-26-5788
<http://www.k-imagawa.co.jp/>
 E-mail : info@k-imagawa.co.jp

～建具の歴史～

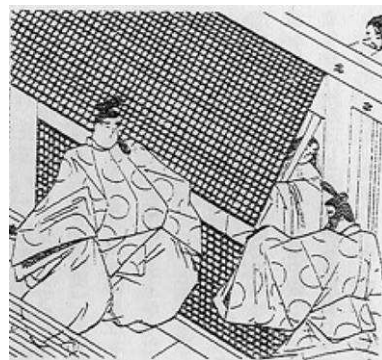
●日本独特の建築文化

建具というのは、戸・障子・襖など、全て部屋を区切る為に取付けて開放する物の総称です。

この建築様式は日本独特のもので、西欧建築に対する考え方とは、根本的に異なったものであることを示す、良い見本だとも言われています。現在のように夏でも冬でもエアコンが活躍している時代と違って、昔は蒸し暑い夏には障子や襖を開け放って風を取入れ、冬は襖、障子、雨戸を閉めて寒さをしのぐという、簡単で素朴な方法により昔の人々は自然に対処したのです。更に、木材を使う理由としては、種類、量ともに豊富な木材資源があったことや、地震対策には木造のほうが有利であったことなどが考えられています。最近では日本の生活スタイルも欧米化が進み、住居も洋風建築が多く見受けられるようになりましたが、洋風とはいうものの、少なくとも一間は畳の部屋があり、その中で「動く壁」といわれる障子などの建具はしっかり生き続けています。

●平安時代に生まれた建具

建具を作る職人は時代や地方によって「建具屋」「戸障子師」「建具師」「戸屋」とさまざまな名前では呼ばれていました。いずれにしても江戸時代初期に大工の一部が指物師、建具師へと専門化し、江戸時代の中頃には独立した職人集団として成り立っていました。建具の原形は中国から伝えられた屏風や衝立にあると言われていました。現在見られるような引戸の建具が登場したのは平安時代に入って、貴族階級の住いとして、寝殿造りが考案されてからだと言われています。当初は外部戸は蔀戸で内部は屏風や衝立で仕切っていましたが、次第に独立した部屋としての機能が必要となり、木の骨組みに板、紙、麻、絹などを張った日本独特の建具が誕生したのです。



寝殿造りに用いられた蔀戸

志太の伝統産業 引用

●現在 建具屋の廃業が加速

現在では、全国的に木材加工業者の廃業が進み機械が処分されているのが現状です。特に中小零細業者の多い建具屋は新建材の合板建具に仕事を取られ、加えて後継者がいないということもあり倒産廃業が加速度的に進んでいます。圧倒的に60歳以上の職人さんが多い為、後3年ぐらいで1/3ぐらいになるかもしれないというのが現状です。

